

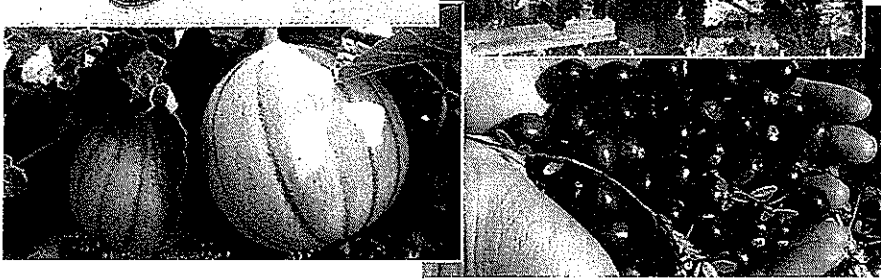
特集

## 話題の抗酸化素材

普及の決め手は

ブドウ写真提供：キッコーマン

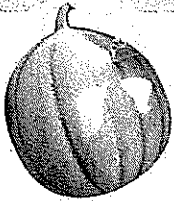
データと積極的な情報開示



本

特集では、アンチエイジング、メタボリックシンドローム分野において急速に拡大しつつある抗酸化素材を中心に取り上げる。アスタキサンチン、クランベリー、グレープシードなどのポリフェノール類、GliSODin/オキシカイン、白金ナノコロイドといった次世代型抗酸化素材などいずれも、来春以降市場の話題を集める可能性の高いものばかりだ。各メーカーでは、これら有力素材を積極的に展開中で、各商材の認知を図っている。本特集では、それぞれの訴求点をはじめ、商品開発の現場で評価される理由を紹介する。

## GliSODin/オキシカイン



オキシカインはフランス・アヴィニオン地方で栽培されているヴォークルシアン種のメロンから抽出されたメロンSODと小麦グリアジンを結合させたもの。原料供給元はフランス・ISOCELL (イゾセル社)、日本での総発売元はニュートリション・アクトとなっている。生体内のSOD活性を上昇させる作用メカニズムが大きな特長で、「SOD誘導食品」と言われている。フランスを中心に数々の機能性研究が行われ豊富な学術データを有する。

■ ニュートリションアクト  
『GliSODin/オキシカイン』の国内総販売元(株)ニュートリション・アクト(東京都港区)。昨年1年間、アンチエイジング、美容、美肌、メタボリックシンドローム等に対応する食品素材としてメロンSOD

『GliSODin/オキシカイン』の市場開拓に注力。現在では次世代型抗酸化素材として認知が進み、大手食品・医薬品メーカーをはじめ各社で商品開発されるなど順調な市場形成が進んでいる。

同社ではパリ大学医学部で2年間にわ

たって検証した動脈硬化に対する予防機能データなどを基に、「今後さらに、メタボリックシンドローム対応素材としての提案を強化していきたい」という。同社が今年から「DNAリペア(修復)」との切り口で提案している新素材『AC-11』(キャットクロウ抽出物)と合わせ、『GliSODin/オキシカイン』で「DNAプロテクト」、『AC-11』で「DNAリペア(修復)」という相加・相乗効果を期待する複合提案なども含め、引き続き市場での定着を図る。

また仏・イゾセル社が行った動物(犬)に対する抗酸化酵素活性や感染症に対する治療薬との相乗効果などの試験結果を、飼料分野やペット向け市場にもアピールしていく。